

「ネットワークポリマー論文集」原稿執筆の手引

1. はじめに

投稿規定、原稿執筆の手引きおよび図面原稿の書き方をよく読んで体裁の整った、読みやすく、理解しやすい論文を執筆されたい。

2. 原稿の体裁

2.1 原稿は A4 用紙（縦置き、横書き）を用い、和文または英文で書く。

2.2 和文では、原則として、上下左右 30mm の余白を取り、1 ページ 28 行、1 行 36 文字、明朝体を用いる。

（原稿 2 枚で文字数が刷上がり 1 ページに該当する。）

英文では、原則として、上下左右 30mm の余白を取り、ダブルスペースで 1 ページ 20 行、Times 体または Century 体を用いる。

字体については、例えば、図表表記をゴシック体にする等、定められた表記ではそれに従い、明朝にかえて MS 明朝等を、Times にかえて Times New Roman 等を用いてもよい。図表では内容にふさわしい字体を用いる。和文中の数字、英語表記、等は指定のない限り Times 体または Century 体とする。

2.3 原稿の順番と図表説明の表記

(1) はじめに、次の内容を記載する。

和文報文の場合、原稿の種類（報文）、標題、著者名、所属機関名及びその所在地、和文概要、および、英文で、原稿の種類（Original）、標題、著者名、所属機関名及びその所在地、英文概要(Synopsis)、key-words を記載する。

英文報文の場合 英文で原稿の種類(Original)、標題、著者名、所属機関名及びその所在地、英文概要(Synopsis)、key-words を記載する。

報文以外の原稿についても、同様に投稿規定別表に定められた項目を記載する。

(2) 続いて、本文、謝辞・付記、参考文献、を記載する。これらの原稿にはページ番号をつける。

(3) 図中（縦軸及び横軸の文字等）および Caption(説明文) は英文表記とする。

(4) 表および Caption は英文表記とする。

3. 原稿作成

3.1 用字・用語

原稿は原則として当用漢字と現代かなづかいを、外国語の単語はカタカナあるいは原語を用いる。

学術用語は、「学術用語集（文部科学省編）」に従う。

数字、アルファベット等は半角とし、句読点は「,」,「。」を用いる。

3.2 題目

原稿の内容を的確に表す独立した題目をつける。できるだけ略号は用いない。

英文題目の場合、最初に”Study on”とか”On the”などはつけず、冠詞、不定冠詞はできるだけ省略する。

3.3 著者名

姓・名とも略さず記入する。著者が複数で、機関が異なる場合、* , **, ***, …をつける。

3.4 所属機関名

著者の所属機関名、所在地を脚注に記入する。機関が異なる場合は、* , **, ***, …をつける。

3.5 和文概要、英文概要

得られた重要な結果と結論を、和文概要は 400 字程度、英文概要は 150words 程度で表記する。

原則として文中に段落は設けない。本文が英文の場合は、和文概要は不要である。

英文概要の次に、論文の記載内容を示す **key-words** として、英単語 5 words 以内を記載する。

3.6 英文 Key-words

英文 **Key-words** では、化合物名の略記は用いないことが望ましい。最初の文字は大文字、**Key-words** と **Key-words**

との間は、「,」で区切る。5 語以内とする。

4. 本文

4.1 本文は次の形式に従って書くことが望ましい。複数の見出しから構成されるようにする。

緒言, 理論, 実験, 結果, 考察, 結言 (結論)。このうちいずれかの項目は省いてもよい。但し、総説もしくは総合論文では諸言に変えて、「はじめに」とし、結言に変えて「まとめ」、「おわりに」とする。

ノート, 速報および寄稿文には、投稿規定の別表に示すごとく、上記形式の一部を簡略してもよい。

また、内容として、上記形式が著しく不適切な場合は別形式としてもよい。

章・節・項は次の例のようにし、章の前を一行あけ、章・節・項の数字の後は 1 字あけて書く。

[例]	3. 結果と考察	(章)
	3.2 考察	(節)
	3.2.1 多層材料の異方性	(項)

4.2 化合物・化学式の書き方

(1) 本文中では化学式を使わないで化合物名で書く。

(なお、論文を簡潔に見易くするために、紛らわしくない場合には、元素は記号で、簡単な化合物は化学式で表してよい)。

化合物の命名は原則として IUPAC の命名法に従い、原則として、日本語名で書く。

① 日本化学会化合物命名小委員会編「化合物命名法について」

② 高分子, 27, 345 (1979) ③ 高分子, 35, 880 (1986), ④ 高分子, 49, 85 (2000) を参照。

(2) 化合物を略記号で表す場合は、本文の最初に出てくる箇所で、正式の化合物名に略記号をゴシック字で付記する。

[例] アゾビスイソブチロニトリル (**AIBN** と略記) または アゾビスイソブチロニトリル (**AIBN**)

(3) 化合物を番号で表す場合には、[1], [2], [3] ... のように書く。(数字はイタリック)

(4) 化合物を日本語で書くとうっかりにくいような場合には、英語名を併記する。

(5) 化合物名では構造が簡単にわからないような場合には、構造式を付記する。

4.3 単位・記号

(1) 数字記号 (JIZ Z 8201), 量記号 (JIS Z 8202) の表示はそれぞれの JIS に従う。

(2) 単位は SI を用い、その表示方法は JIS Z 8203 「国際単位系 (SI) およびその使い方」に従う。

単位記号には複数を 사용하지 ない。「℃, %」以外は数詞と単位の間半角スペースを入れる。

(3) 時間の単位記号を文章中で単独で用いるときは、年, 月, 日, 時間, 分, 秒, の漢字を使用する。

またこれらを積や商の形, および, 図, 表中で用いるときはそれぞれ y,m,d,h,min,s を使用する。

4.4. 数値・数式

数値は原則として $\frac{a}{b}, \frac{a+b}{c+d} \sin ax$ のように書くが、文中にでてくるものは $a/b, (a+b)/(c+d), (2/3) \sin ax$ のように 1 行に書く。

4.5 引用文献（項目としては「参考文献」とする）

- (1) 1 つの文献番号には、1 つの文献番号を対応させる。同一著者で同じ雑誌の文献であっても”ibid.”は用いない。
- (2) 引用文献は本文中に、^{1),2)...} または、¹⁾⁻⁵⁾ のように通し番号で示す。

雑誌では、文献番号（上記通し番号）、著者名、雑誌名、**巻数**、通巻ページ数、（発行西暦年）、の順に記載し、通巻ページ数がない場合は巻数の後に（号数）、号内ページ数、を記載する。

単行本では、文献番号、著者名または編集者名、“書籍名”、改訂版数、出版社名、（発行西暦年）、p. ページ数、の順に記載する。

特許では、文献番号、発明者または特許権者、特許種別、特許番号（外国特許では発行西暦年）、を記載する。規格等の場合は、文献番号、規格等の種別と番号（あれば、発行西暦年）、を記載する。

インターネット上の情報の場合 電子ジャーナルの論文では、著者名、記事・論文名、出版年、巻数、号数、はじめのページおわりのページ、入手先、（入手日付）。Web ページでは、著者名、Web ページのタイトル、アドレス（URL）、（入手日付）を記載する。その他「SIST（科学技術情報流通技術基準）SIST 08 学術論文の執筆と構成」を参考とする。

【例】

<雑誌の場合>

- 1) M. Kamigaito and K. Satoh, *J. Network Polym. ,Japan*, **30**, 234 (2009) [in Japanese].
- 2) M. Kato, A. Tsukigase, A. Usuki, T. Shimo, and H. Yazawa, *J. Appl. Polym. Sci.*, **99**, 3236-3240 (2006)
- 3) 有田和郎, 小椋一郎, ネットワークポリマー, **30**, 192 (2009)
- 4) 野村 衛, 武部具文, 木材工業, **33**, 223-236 (1978)

<単行本の場合>

- 5) J. A. Dean, “Lange’s Handbook of Chemistry,” 15th ed., McGraw Hill, New York, NY, USA (1999).
- 6) L. H. Sperling, “Comprehensive Polymer Science,” Ed. by G. Allen, Pergamon, New York (1989) p.423.
- 7) 藤本 博, 山辺信一, 稲垣都士, “有機反応と軌道概念”, 化学同人, (1986) p.97

<プロシーディングスなどの場合>

- 8) T. Imai, G. Komiya, K. Murayama, T. Ozaki, F. Sawa, T. Shimizu, M. Harada, M. Ochi, Y. Ohki, and T. Tanaka, Proc. of Int. Symp. on Electrical Insulating Materials (ISEIM) 2008, Mie, Japan, 7-11, Sept. (2008) p.299.

<電子ジャーナルの論文の場合>

- 9) 永瀬 節治. 近代的並木街路としての明治神宮表参道の成立経緯について. ランドスケープ研究（オンライン論文集）. 2009, vol.2, p.46-53.

http://www.jstage.jst.go.jp/article/jilaonline/2/0/46/_pdf/-char/ja/, (参照 2009-10-15).

- 10) Stephanie H. Chanteau and James M. Tour. Synthesis of Anthropomorphic Molecules: The NanoPutians. *Journal of Organic Chemistry*. 2003, vol.68, no.23, p. 8750-8766.
doi:10.1021/jo0349227, (cited 2009-10-15).

<ウェブサイト中の記事>

一連番号) 著者名. “Web ページの題名”. Web サイトの名称. 入手先, (入手日付).

厚生労働省. “『生涯キャリア支援と企業のあり方に関する研究会報告書』について.” 厚生労働省.

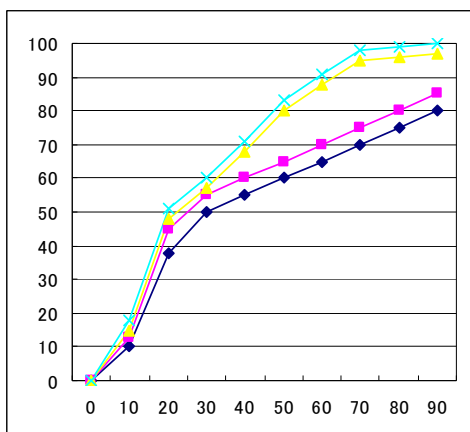
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/07/h0720-6.html>, (参照 2010 年 11 月 2 日).

- (3) 和雑誌名は省略しない。外国語の雑誌名は **Chemical Abstracts** で用いられる省略名を記載する。
- (4) 見出しに文献番号を付けることは極力避け、文献著者名を文中に引用する場合は所属や敬称は付けない。
 なお、謝辞においては所属と敬称を記載してもよい。
- (5) 脚注は上付きで、^(*), ^{(*)2}, …のように示し、参考文献と区別する。

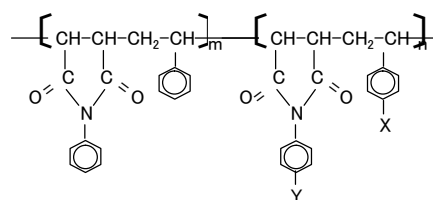
5. 図・表の書き方

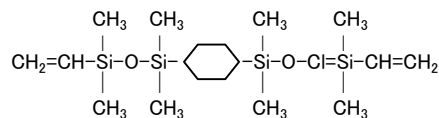
- 5.1 図・表は半ページ幅（片段：83mm 幅目安）またはページ幅（段抜き：173mm 幅目安）を想定して作成されたい。
- 5.2 図・表の説明（Caption）は原則として英文とする。
- 5.3 表の番号は Table1, Table2... のように通し番号を付け、表の Caption は表の上に記す。
- 5.4 図の番号は Fig.1, Fig.2... のように通し番号を付け、Caption は図の下に記す。写真も通常は Fig. とする。
- 5.5 図・表の大きさは刷り上がり幅 7.8cm 以下（片段）を原則とするが、特に複雑な図では刷り上がり幅 17 cm を限界とする。原図および軸目盛りはこの刷り上がり寸法の大きさに縮小されることを考慮して作成する。
- 5.6 本文中で図・表・式を引用する場合は、**Fig. 1** または **Table 1** のように、ゴシックで表すこと。
- 5.7 図、表、写真、などの原稿はそれぞれ 1 点ごとに A4 版用紙 1 枚に書く。
- 5.8 図原稿には周囲 3cm 以上の余白を置くこと。
- 5.9 他人の図をそのまま転載する場合は、原著者の許諾を必要とする。
- 5.10 軸の目盛りと説明
 - (1) 図は縦、横軸に必要な目盛り（通常は左側縦軸と下側横軸）の線を短く図の内側に入れ軸の説明を縦、横軸の外側にそれぞれ軸に平行に左から右へ書き、軸の中央に置く。
 - (2) 図柄中の記号は、なるべく簡単なもの（○, △, □, ●, ▲, ■ など）を用いる。刷り上がりがモノクロとなることを考慮し、見分けやすくなるように配慮する。原稿をモノクロ（黒色のみ）でプリントアウトし、確認すること。黄色、薄青色等は通常は不適である。
 - (3) ベンゼン核は原則として下記のように正六角形の中に実線で丸を入れる。または二重結合を線で表し、両者を混用しないこと。
- 5.10 化学式、構造式など
 - (1) 複雑な化学式、環状の構造を表す構造式、化学反応のフローチャートなどは図の書き方に準じてすべて墨書し、Scheme1, Scheme2... のように通し番号をつけ、表示する。
 - (2) 化学式、構造式の文字は全て英語で書く。ただし、量記号などに用いるギリシャ文字などはこの限りではない。
 - (3) 本文中で式を参照するときは、Scheme1, Scheme2... と記す。

[例 -1 図原稿]



[例-1 Scheme]





6. よく使用される単語および表現方法の統一

本誌では、次のように表現を統一する。但し、著者がどうしてもその表現を使用すべき理由がある場合はこれによらず、なくてもよいものとする。

6.1 著者 1 人称：「著者」，「著者ら」に統一する。（筆者，我々，等の表現をとらない。）

6.2 機器，材料，試薬等の製造者名等で，社名を記載する場合，国内企業であれば，(株)***，*** (株)，(有)*** のようにし，*** 部分は省略しないこと。海外企業であれば，*** 社として*** 部分をカタカナとするか，社名全てを英文表記とする。なお，漢字使用国で社名が漢字で表現できる場合，国内企業の海外現地法人等の場合も原則として海外企業としての表示方法に従う。社名変更があった場合は，当該機器等の導入時期の社名を表示すること。大学や研究所名を表示する場合は，「学校法人」「独立行政法人」「財団法人」等は省略してよい。

6.3 参考文献，引用文献：「参考文献」に統一する。（「引用」，「引用する」という表現は使用してよい。）

6.4 謝辞等における敬称は原則として，氏，博士，Mr.，Dr. のいずれかとする。謝辞等における対象者の所属は，法人名またはそれに類する範囲までとする。（例えば，〇〇大学大学院，〇〇大学，〇〇(株)，〇〇研究所，〇〇協会）

6.5 次のような場合は，かな書きが適当である。「出来る」→「できる」，「僅か」→「わずか」，「殆ど」→「ほとんど」，「甚だ」→「はなはだ」，「可也」→「かなり」，など。